

退職者連絡会

第32号
(発行・編集)
JR九州労組
退職者連絡会
鹿児島地区本部

吉松地区沿線新春交流会 和気あいあいの中、成功裡に終る

去る一月二六日、十六時より恒例の吉松地区沿線居住者の新春交流会が吉松駅前「轟店」で開催されました。

当日は地元を含め沿線各地から十七名が参加、地元の久木元繁副会長の司会ではじまり、幹事会を代表して、中村絃一顧問が挨拶「皆様のご協力で会員の拡大も現在一八六名となりました。四月は始良市議選もあり、三期目を目指す上村ちかし氏必勝に向け現退一致して取り組み」と決意を述べられました。その後、久木元副会長より組織の現状や、交運共済、年間行事のスケジュール等の説明がありまし



た。その後、地元の橋元義嗣町議が挨拶。議会活動の報告と合わせ、「3月ダイヤ改正で肥薩線等で減便が予定されているが、沿線自治体でも利用促進に向けて焼酎列車などイベントを行いたい。又、駅周辺の整備については、駅開発課を庁舎内に設け取り組みを強化することになっている」とJRのOBとして持論を展開

し、全体的な協力と支援を要請しました。引き続き野間たけし前衆議員も駆けつけ挨拶「昨年十月の突然の衆院選で、皆様から大変なご支援お力添えを頂きながら残念な結果となりました。自らの非力を反

新事務局長に追立氏選出 鹿児島退職者団体連合總會

省すると共に、多くの支持者から頂いた九〇、二四〇名もの声援に伝えるべく雪辱を期するため頑張る」と決意を述べられました。宴は終始和やかな雰囲気の下、再会を誓い合い散会となりました。

去る一月二九日、鹿児島県退職者団体連合第二十四回定期総会が鹿児島県労働金庫本店大ホールで開催されました。

当日は各加盟組織の代議員、役員、来賓ら八十名が出席。当連絡会からも4名が出席しました。

総会議長に四位忠夫代議員（退職者教職員連絡会）を選出した後、議事が進められました。

と強く訴えられました。来賓として、森田周一県連合会長はじめ、日本退職者連合会長、野間健前衆議員、伊地知紘徳幹事長（民進）、野呂正和副代表（社民）、（川内ひろし衆議員は国会予算委員会出席のためメッセージ）労金、全労済の各代表が次々と連帯と激励の挨拶。そのあと平野功事務局長（U Aゼンセン退）が二〇一七年度経過報告を行い、引き続き決算報告のあと承認。二〇一八年度活動方針案及び予算案が提



編集後記

東日本大震災（2011年3月11日）から7年が過ぎた。関連死を含めて犠牲者は2万2千人以上。福島第1原発事故等で全国で約7万3千人が今も避難生活を送っている。廃炉完了目標は30年、40年後と言われている。鹿児島では川内原発に反対する市民団体が集会を開き、原発撤退を訴えた。自然災害に想定外は無い。福島の教訓を踏まえ、自然エネルギーへの早期転換を強く求めたい。

まず幹事会を代表して、二牟礼正博会長（自治労退）が挨拶「改憲勢力が衆院、参院で3の2を獲得し、憲法9条の改悪を安倍首相は明言している。反動安倍内閣を阻止するため、統一自治体選挙、来年の参院選を勝ち取らなくてはならない。また社会保障制度の切り捨てで低所得者、年金生活者は困窮している。安心して暮らせる社会実現を」